

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
8月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～労働所得の比率が大きい日本の家計でリスク資産の保有が少ない背景を探ります。

2008/7/11 「家計の労働所得とリスク資産の保有」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～市場を覆うスタグフレーションリスクについてコメントしています。

2008/7/8, 18 「08年後半の市場動向を探る 1、2～ファンダメンタルズ、商品市況」

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～データ重視の情報発信で、景気減速とインフレリスクに言及した白川日銀総裁の手法を語ります。

2008/7/15 「独自色を出してきた白川総裁」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～注目される米国の金融政策と経済の先行き、原油高、インフレに直面するアジア地域の経済情勢を分析します。

2008/7/17 「FRB議長は現状で景気にかんがりの下振れリスクがあると判断」

2008/7/18 「中国経済：4－6月期GDPの概要」

2008/7/22 「トルコ経済事情：金融当局は依然としてインフレ圧力を警戒」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

今月号の『経済トレンド』は新家主任エコノミストの「さらなる上昇が見込まれる消費者物価」、また『けいざい・かわら版』は熊野主席エコノミストの「原油代金の海外流出を取り返す方法」とテーマは原油高騰、消費者物価上昇など、いずれもインフレ色が強い。

日常生活でも、近所のスーパーマーケットの値札に値上げが忍び込んできて久しい。夏休みに海外へ行くとしたら、格安のアジアパックツアーの代金が悠々出るほどのサーチャージ（燃油高による追加料金）を徴収された。この春、十数年ぶりにマイカーを購入したら、いきなりのガソリン代値上げということもあった。これら身の回りの出来事を遡っていくと経済環境の激変に行き当たる。世界経済はサブプライムローンの躓きと資源価格急騰により、一年で絵柄をすっかり変えてしまった。米国経済低迷が長引く懸念とともに、新興国が直面するインフレは各国の経済成長に影を落としている。

一方、同時に経済間の相対関係もいま急速に変わっている。原燃料価格は他の物価に比べ桁違いに高くなり、世界における米国経済の存在感はひとまわり小さくなり、新興国の低いといわれた賃金水準も物価とともにやがて上がってくる。新興国ではこれまで以上に省エネや環境性能への注目は高まるだろう。賃金の内外格差は縮む方向だろう。原材料価格上昇により最新技術への対価が相対的に割安に感じられるようになる。上記レポートの熊野説のように、資源高で潤沢な海外マネーは買い物だけでなく日本の資産や企業へ投資するかもしれない。一方、個人にとっては、今のところ所得の目減りを簡単に取り戻すすべがない。旅先で美味しいものでも食べるにも、ユーロは再び最高値圏で円に使い出がない。次に日本に必要なのは購買力だ。

(H.U)